

【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

球技：ゴール型（バスケットボール）

1 実施の概要

- (1) 実施環境：体育館（Wi-Fi 環境あり）、オフラインでの利用
- (2) 使用機器：タブレット（グループで 1 台）
- (3) 活用ソフト：カメラアプリ、ボイスレコーダーアプリ
- (4) 対象：入学年次 女子生徒 22名

2 活用の実際

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

【学習の流れ】

【導入】

本時の目標
内容の確認

【展開】

鬼ごっこ
2 on 1
2 on 2 + 1
チームミーティング

【まとめ】

本時の振り返り
次時の説明

【活用場面】 場面：展開

ゲーム（2on2+1）の様子を動画撮影しながら空いたスペースへの動き出しについてチーム内でアドバイスをしよう指導した。

ゲームとゲームの間のミーティングにおいて撮影した動画を視聴させ、空いたスペースへの動き出しについてチームの成果や改善点を話し合わせた。動画には撮影者のアドバイスも記録されているため、チームミーティングにおいて活用させた。

【活用場面写真等】



(2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

【観点別学習状況評価】

思考・判断・表現

【評価規準】

選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。

【活用方法】

- ①ゲーム（2 on 2 + 1）を動画撮影しながら空いたスペースへの動き出しについてアドバイスさせた。
- ②ゲームとゲームの間のミーティングをボイスレコーダーアプリを活用し録音した。
- ③授業後、アドバイスが録音されたゲームの映像及びミーティングの音声データを確認し、成果や改善点を仲間に伝えているか評価した。

【活用場面写真等】



3 参加した生徒の感想等

- ・タブレットで動画を撮影したことによって、自分たちの課題を見つけることができ良かったです。
- ・自分のプレーを見ることで、次はどう動けば良いのかが想像しやすくなりました。
- ・タブレットを使って自分たちのプレーを見て、コート上の動き方やコートの使い方をみんなで確認できたのが良かったです。
- ・タブレットでゲームを録画することで、自分がどこにどう動けば良いのか振り返りやすかったです。また、具体的な声かけの仕方がわかりました。
- ・自分がプレーしている時はどこのスペースが空いているかあまり把握できませんでしたが、映像を通して課題点などを仲間と話し合って次の試合に生かすことで成長できてよかったです。

4 成果と課題

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

【成果】

ミーティングにおいて、撮影者のアドバイスが録音されたゲームの動画を視聴させたことにより、空いたスペースを見つけ速く大きく動き出す課題を積極的に話し合うことができた。また、ゲーム→ミーティング→ゲームの流れを繰り返すことによって、ミーティングで確認したチームの改善点をすぐに次のゲームで実践することができ、ミーティングの内容も、具体的で活発なものにつながった。

【課題】

仲間に関わるのが苦手な生徒と、積極的に仲間に関わるができる生徒との二極化が見られた。仲間との関わりが苦手な生徒に対して、個別に目標設定したり、課題に対して具体的なアドバイスを示すなど配慮をしていく必要がある。

(2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

【成果】

ゲーム中のアドバイスを録音した映像や、ミーティングの音声データを活用することにより、授業中の観察では聞き逃した仲間への具体的なアドバイスを授業後にも確認することができ評価の整合性につながった。

【課題】

ミーティングでの音声データでは顔を確認することができないため、どの生徒が話しているか特定することに時間を要する。